

姫路支部だより

H I M E J I S H I B U D A Y O R I



10

2017 October No.29

- 1 9月の活動報告
- 10月の活動予定
- お知らせ
- 2予告
- 「台湾の建築を満喫する研修見学会」
- コラム
- 「景観」は「警官」?!・・・吉田 一幸
- 3 姫路建築探訪 F.49-V.26
- 旧山陽道周辺まち歩き 福岡憲昭・山本薫



目に飛び込んでくる古民家の軒は波形に漆喰で意匠され、漆喰壁の外壁、虫籠窓、縦格子、木製建具ままで昔の風情がそのまま残っている。

この『旧山陽道』沿いには古建築だらけで全く飽きがこない・・・

表紙写真・文
都市景観重要建築物等 井内家住宅
(姫路建築探訪より)

■ 9月の活動報告

- 9.11 (月) 6 役会 (姫路建設会館)
- 9.20 (水) 環境デザイン研修会 (姫路建設会館)
- 9.28 (木) CPD認定事業 構造学習会 (姫路建設会館)
- CPD認定事業 建築相談 (姫路市役所)

■ お知らせ

県青年委員会の研修事業
日時：10/15 (日) 午後から 場所：書写山、船場城西地域
内容：社寺建築、古建築の見学 (西脇青年委員長)

■ 10月の活動予定

- 10. 5 (木) 建築模型作り体験講座 (県立ものづくり体験館)
- 10.18 (水) 環境デザイン研修会 (姫路建設会館)
- 10.20 (金) 建築模型作り体験講座 (県立ものづくり体験館)
- 理事会 (姫路建設会館)
- 10.26 (木) CPD認定事業 構造学習会 (姫路建設会館)
- CPD認定事業 建築相談 (姫路市役所)
- 10.27 (金) CPD認定事業 建築子供プログラム (旭陽小学校)

「台湾の建築を満喫する研修見学会」 2018年1月26日（金）～28日（日）

建築士会姫路支部の60周年事業として、初の海外研修見学会を行います。

台湾の建築を見て、台湾の建築家との交流。

台湾の新旧の建物を見学しつつ、観光名所も行く予定です。

詳細 coming soon !



コラム

Column

「 景観 」は「 警官 」?!・・・。

H29.8.18

お盆休みの前日、例年のごとく旧知の友人が事務所を訪ねてくれた。

幼馴染の彼には、学生以来、会う毎に必ずタイムリーな話題で笑いの地獄に突き落とされ、気づくとすでに数時間が流れている。

そんな彼は、今はある大学で犯罪心理学の講座を担当している。

今年も彼の話で笑い転げている間に、どういう訳か話題が「まちづくり」へと発展し、今回に限りいつもとは違った展開となり、「街づくり」や「景観づくり」を仕事としている私にとって興味深い、目から鱗の話となった。

彼曰く、「不審者※は美しい街が苦手な寄り付くことを避ける。」

「不審者（犯罪者）※はゴミゴミとした雑然たる街を好み、そこが居心地よく、多数の同類の者たちが寄り集う。」

「乱れた環境は不審者たちを包み込み、自在に振舞える都合のいい場を提供し、ひいては犯罪にまで繋がる温床となる。」

言わば、「環境が犯罪を誘発させる。」…と。

それ故に、彼の言葉は、

「地元住民の方々による街を美しく良好な生活環境を整えようとする街づくり活動は、まちが美しくなるだけでなく、不審者を一掃し犯罪行為を抑制するという防犯活動に想像以上の大きな効果を発揮し、しかも、コスト負担の小さなボランティア活動である」と言う一石三鳥の活動である。」…と繋がる。

建築やまちづくりを仕事としている私には、景観とか環境は、あくまで創作活動の対象物であり、事象であり、その場をいかに快適で調和のとれた空間に創造し、提供するかを最大の関心事とし、その実現を第一義に考える。

しかし、今回、私は、われわれの日常的な創作活動が、凶らずも地域の防犯という社会的な意味を持ち、無意識のうちに一役を担っていることに気づかされた。さらに、まちの景観整備にコストをかけることが、設計者の単なる自己表現のための無駄遣いではないことも解り、大いに安堵することができた。

「まちの景観」が「まちの警官」で、「まちの警官」を「まちの景観」が務める、ということになるのであろうか・・・。

兵庫県建築士会姫路支部

吉田 一幸

注) 文中 ※ 印部は適切な言換えがなく、会話中での原語のまま使用しています。

【井内家住宅】

都市景観重要建築物等【内部非公開】
 指定番号：第 20 号
 指定日：平成 10 年（1998 年）11 月 20 日
 建築年代：19 世紀前期
 所在地：姫路市御国野町御着 941 番地



【小原家住宅】

都市景観重要建築物等【内部非公開】
 指定番号：第 21 号
 指定日：平成 10 年（1998 年）11 月 20 日
 建築年代：19 世紀前期
 所在地：姫路市御国野町御着 1174 番地の 3



【感想】

『知らない横丁の角を曲がれば、もう旅です』 タレント永六輔さんの言葉だ。今回はそんな言葉がびったりの街歩きとなった。JR 御着駅の少し北側、信用金庫の在る御国野南交差点を起点として東へ歩き始めるこの細い道は国道 2 号線から一本南側に存在する『旧山陽道』である。いきなり茅（藁）葺に鉄板を被せた古民家が我々を迎えてくれ、初っ端から驚きがあり思わず笑顔になる。この建物は今も店舗として現役で使用されている。

（実はこの後、この心地よい驚きがまだ続くことを二人は知らない。）また少し歩くと道路に面して縦格子が綺麗な古民家が見えてくる。と思ったらその隣にも、以前は虫籠窓であったらう古民家が目に飛び込む。「この辺り、古民家だらけで凄いなあ！」と二人で話しながら東へ。

『旧山陽道』より少し入った路地辺りにも古建築のものらしき瓦屋根がチラチラ見えるので『旧山陽道』を少し進んでは南の路地に入り、また『旧山陽道』を歩き今度は北の路地へ。を繰り返しながら東へ、東へ！目に飛び込んでくる古民家の軒は波形に漆喰で意匠され、漆喰壁の外壁、虫籠窓、縦格子、木製建具ままで昔の風情がそのまま残っている。

この後はもう「あっ！（驚き）」「いい！すごくいい！（喜び）」「う～ん！（感動）」「え～っ！（超驚き）」「お～お！！（感激）」の母音の感嘆詞しか出てこない（笑）。路地に外壁を黒漆喰で塗り替えられた綺麗な古民家に目を奪われる。

隣の畑で作業されているご婦人に話を聞いたところ、住人の方は他所に住居を移し現在は盆正月や親族の集まりにしか使用されていないとのこと。住居の中も綺麗にされている様で大事にされていると話されていた。こういう古民家が後世まで残っていくことを願いながらこの建物から離れる。途中「大蔵神社」に立ち寄り「絵馬殿」に所狭しと掛けられた絵馬の多さ、見事に感動。古いものは 天保八年（1837 年）もので、同様に神社の山門も相当古いものとみられ、これも立派な古建築！『いいなあ…』とほっこり。

その他にもこの『旧山陽道』沿いには都市景観重要建築物等の『小原家住宅』『井内家住宅』もあり、古建築だらけで全く飽きがこない。一軒の納屋の前で写真を撮っていると道路を挟んだ反対側の古民家からご婦人が、訝しそうにこちらを見られていたので、声をかけ話を聞くことにした。

やはり怪しい二人組に見えたらしく（笑）、古い建物の見学をしている旨を話すとようやく笑顔に。「この道は素晴らしい建物が多くて感動しました。」と正直な感想を言うと「古いばかりで」と謙遜されていたが、「最近は空き家が多く、人が居なくなった住宅は傷みが激しく新しい住宅に建て替えが進んでいます。」と寂しそうに話をされた。こういう旧道沿いはどこも同じ問題を抱えている。

さらに、東へ、東へ進む。起点から播但自動車道下まで片道 1.1 km びっくりするほどの数の古民家が存在している。今まで街歩きをして古民家に出会うことは多々あり、「綱干」などはその典型だったが、この『旧山陽道』沿いの古民家、それも金属製建具に入れ替えていない木製建具のままの住宅が相当数残っているとは正直思わなかった。勉強不足を痛感…

この街歩き最後の方に 二人から同じ言葉が口から突いて出た。「この『旧山陽道』は 宝の山！今のまま手を打たないと貴重な、大事な、宝が消えていくぞ…」 何とかした思いが心に強く残る。

太陽も沈みかけて薄暗くなってきた頃に来た道を引き返す。この『旧山陽道』でも一番手を掛けられていそうな古民家に灯りが灯っていた。灯りに照らされた季節の花に縦格子と白漆器の外壁が綺麗。こういう住み手の愛情が伝わる古民家が存在する間はこの街道は大丈夫！と思いたい…

あとがき

おじさん二人で歩くとどうも怪しく見えるらしく、住民の方の視線が痛い（笑）なので、何回かの街歩きで怪しまれないコツを習得しました。すれ違う住民の方に積極的に話しかける作戦で、相手の心の緊張を解くようにしたところ、色々な貴重な話を聞けることができます。住民の方に感謝です。